

第3回鎌倉市交通計画検討委員会・特別委員会 議事要旨

【日 時】令和2年（2020年）1月8日（水） 11:00～12:10

【場 所】鎌倉商工会議所 1階 102会議室

【議題（1）鎌倉地域の交通状況（資料-1（1）、資料-1（2））】

（委 員）資料-1（1）P.3 のオレンジの枠で囲われた内容は、鎌倉市交通計画検討委員会で議論され、合意された事項と理解してよいのか。

（事 務 局）そのとおりである。

【議題（2）現時点のロードプライシングの検討状況等（資料-2）】

（委 員）ロードプライシングの議論を進めていく中で、最も大きな課題は何か。

（事 務 局）市民への課金を0円とすることや、ETCシステムを一般道路へ適用することである。

（委 員）総務省との事前相談の中で、どのようなことが課題として明らかとなったのか。

（事 務 局）市民に対して課金しないことについて、公平性の観点から十分な整理が必要であることや、入った車に税を課したいのか、入った人に税を課したいのかの整理が必要であること、障害者等の課税免除について、全国から車が来る中でどのように把握するのか、といった意見をいただいている。

（委 員）資料に課金箇所が明示してあるが、抜け道となるような道路について交通規制をするようなことがこれまで議論されているのか。

（事 務 局）細街路については、ライジングボラードとセットにした交通規制について、交通計画検討委員会において検討した経過がある。

（委 員）道路交通法で交通規制が可能な要件というのは決まっている。課金逃れのために規制するのは難しい。また、ロードプライシングの実施に合わせた土日祝日のみの交通規制は、課金対象でない車を除外する必要がある状況もある中で、取り締まりになじまない。補助標識を設置しても、ドライバーは瞬時に判断できないし、交通規制は難しいと考える。さらに、交通規制を実施する場合には住民への通行許可証の発行事務も発生するが、業務の負担が大きい。現実的には、脇道については、物理的に入れなくするか、課金システムを導入するしかないと思う。法制度化されて鎌倉でいざロードプライシングをやろうとなったときのことを考えて、抜け道対策はしっかりと考えるべきである。

（委 員）ロードプライシングを実施して目指す鎌倉市の交通の姿を明確にした方が一般の協力を得やすいし、国も支援しやすいと思う。

（委 員 長）鎌倉市では20年以上前に20の施策を提言し、実施可能な施策から導入してきたが、なかなか解決できず、休日には消防や救急活動に支障をきたしている。市民の日常生活を守るためにもロードプライシングは必要であるとの議論に至った。

（副 委 員 長）資料-1（1）P.3 の（仮称）鎌倉ロードプライシングの基本的な考え方に示されているとおり、徒歩と公共交通を中心としたまちを目指しており、その実現のため、ロードプライシングを導入して自動車交通量を削減することを考えている。

（代 理 委 員）資料-2 の P.5 に書かれている道路空間の再編とは、具体的にどのようなことを考えているのか。

- (事務局) 具体的な対策案までは詰めていないが、例えば長谷観音前交差点付近では歩行者空間があるので、交通環境が少しでも改善できるような工夫ができないか検討することをイメージしている。
- (代理委員) 八幡宮前交差点や長谷観音前交差点は、昨年、鎌倉市から交差点改良の要望があり、検討を行ったが、区画線の引き直しによる改良も困難な状況であることを情報提供させていただく。

(議題(3) 今後の進め方(資料-3))

- (委員) 2～3年前に観光交通イノベーション地域に鎌倉市が選定されたことを受け、国土交通省として鎌倉市を重点的に支援することを決めた。また、2年前に政府の骨太方針2018で交通需要調整のための料金施策について検討することが閣議決定されている。そのうえで鎌倉市からさらにというお願いなので、国土交通省や関係機関が力を合わせて支援するとうよいと考える。
- 東京オリンピック・パラリンピックにおける総合的な交通対策については、今回の鎌倉市と同様に、昨年の2月に東京都と組織委員会から国土交通省に検討の要望があり、その後8月に検討結果を示している。大会期間中は、これらの施策導入による課金の実績を積み、鎌倉市の交通施策にフィードバックできればと思う。
- 短期的な施策についても、検討したものについてはすぐに返して実験・実装を促したい。鎌倉市民の生活環境の改善に向けて、鎌倉市に対して支援をしていく考えである。
- (委員) 警察庁としても鎌倉市の交通対策について支援していく考えである。また、鎌倉市で各種法令に基づいて整理していることについて、情報共有をお願いしたい。
- 先ほど交通規制に関する意見が出たが、計画を実務に落とした時に、必ず課題が出てくるので、特別委員会の委員の関係機関を含め、より緊密に連携していくことが重要だと考える。
- (代理委員) 鎌倉地域へ流入する車両の6割が横浜ナンバーということは、観光者以外にも日常的に利用している車もあると思う。交通シミュレーションを行う際には、周辺道路への影響も含めた解析をお願いしたい。
- (委員) 交通シミュレーションの実施にあたっては、神奈川県や神奈川県警察本部などから意見を伺いながら進めていきたいと考えている。
- (委員) 鎌倉市内の住宅地では、高齢化率が高く、公共交通機関を使っても移動できない人や交通不便地域での移動困難者がいる状況にあり、これに渋滞が加わっている。鎌倉市としては、様々なイノベーションを活用しながら、前例にとらわれずに、チャレンジして課題解決をしていく考えである。引き続き、皆様からのご協力をお願いする。

以上